



探究的な学習研究推進通信

Fukutomi Inquiry learning Team



令和3年
8月2日
(月)
No.4

○第2回探究的な学習の在り方に関する研究推進地域連絡協議会

7月9日(金)にオンラインで行われた第2回研究推進地域連絡協議会の内容についてお伝えします。武庫川女子大学の藤本勇二准教授から、『生活科、総合的な学習の時間における実践のポイント』、『研究推進地域の単元開発に向けて』の講演をしていただきました。

☆『生活科、総合的な学習の時間における実践のポイント』

○生活科、総合的な学習の時間の授業を行うとき、**子供は有能な学び手である**と考えて授業を作っていくことが大切です。教師側がおせっかいをし過ぎないということです。例えば、家庭科の授業で調理実習の授業を行うとき、実習という活動を達成させるために、準備は教師が行います。しかし、生活科、総合的な学習の時間の授業では、教師が準備を行う必要はありません。素材や場所の準備も失敗しながら児童生徒が行うことで、子供たちが自ら道を歩いていくことができる資質能力を身につけることができます。**教師の役割は、活動の達成を支援することではなく、子供たちがやりたくなるような環境を作ること**です。



○生活科、総合的な学習の時間の目標は、**子供が自ら道を選択し、歩いていけるような資質能力を身につけさせること**です。そのために、子供たちの非認知能力(テストなどで数値化することが難しい内面的なスキルのこと。例えば、「課題に対して考えることをやめず、粘り強く取り組む能力」など)を育成していかなければなりません。**非認知能力の一つである「課題に気付く能力」は、探究的な学習を行う上で、課題を自分ごととして捉えてスタートするための大切な能力**です。気付きの質を高めるためには、以下のような3つの方法があります。

①思いや願いを育てることで、気付きの質を高める。

効率主義にならず、地域の方に思いや願いを語っていただいで共感させるなど、今まで行ってきた活動の型から抜け出すような試みが必要です。**語っていただいた思い、願いを、子供たちの思い、願いにしていきましょう。**

②個と集団のかかわりを通して、気付きの質を高める。

児童生徒が話し合いたくなるような問いを、児童生徒の中から引き出しましょう。また、一人の意見の強い児童生徒の発言に流されるのではなく、自分のもっている意見をしっかりと場に出すことができる「話し合いの力」を育成する必要があります。日頃から、**安心して話し合いができる集団づくり**をしていきましょう。自分と考え方が違う人と対話をするすることで、様々な立ち位置から考え、物事を多角的に考えることができるようになります。



③体験と表現を豊かに行き来することで、気付きの質を高める。

他者との対話で自分がどう変わったかを振り返ることで、自分の変化(=成長)を自分で把握することができます。また教師は、要所で「本質的な問い」を繰り返し行い、子供たち自身に学びを整理させましょう。このように、**表現活動が子供の学びの文脈になるよう工夫をすると、振り返りに必要感が生まれ、学びの質が高くなり、次の体験につながっていくようになります。**

☆『生活科、総合的な学習の時間の単元開発に向けて』

○単元開発をどのように？

- ・3つの視点(児童生徒の興味関心、教師の意図、教材の特性)から中心となる活動を思い描く。(右図参照)
- ・探究的な学習として単元が展開していくイメージを思い描く。

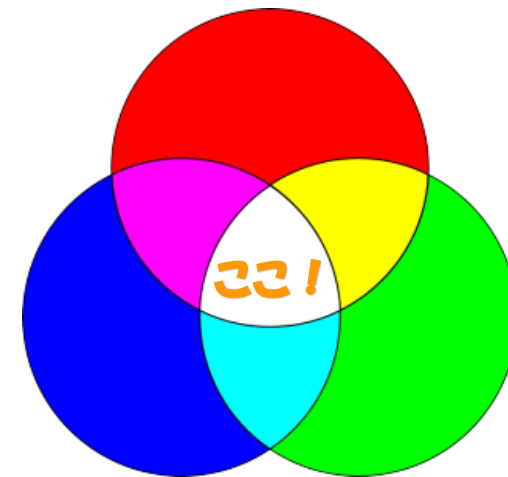
○単元計画は途中で修正OK! 今年3年計画の1年目です。探究活動を進めていると、当初の計画とは違う方向に進んでいってしまうことが起こるかもしれません。そうなってしまっても問題ありません。とことん追究させていきましょう。

なぜ変更したのか理由がはっきりしていて、その経緯を残すことができればOKです。

講演では、地域にある棚田について探究的な学習を行った事例を話していただきました。教師側は、この町に古くからあり、地域の方々が誇りをもっている棚田について、掘り下げて学習を進めたかったようです。しかし、子供たちはその棚田でとれたもち米でつくる桜もちの食紅に興味をもったようで、「先生…この食紅って安全なんですか?」と質問をしてきたそうです。テーマが棚田から食の安全へとスイッチし、子供主体で様々な立場の方に話を聞いたりして、質の高い活動になっていったそうです。

昔の子供たちと比べて、今の子供たちはたくさんの情報の中に生きています。そして多くの場合、子供たちの知識は偏っています。**教師側が下手にバランスを取ろうとリードすると、子供たちはその課題を自分ごととして捉えることはできなくなってしまいます。だから、単元計画を修正すべきなのです。**単元計画修正のいきさつとその流れ自体が、研究成果になるのだと思います。PDCAサイクルを、細かく回していく必要があります。子供たちも私たちも、失敗から学んでいきましょう。

児童生徒の興味関心



教師の意図

教材の特性

これからの予定

- 8月 5日(木) 全員参加, 会場「道の駅」終日
ドリームマップ作成(ワークショップ)
- ※8月 6日(金) 単元計画作成〆切
- 8月17日(火) 9:00-16:30
東広島市教育委員会 花岡指導主事来校
年間指導計画の検討(グループ・学年別)
- 8月25日(水)~27日(金) 3日とも終日
FIT+α(できるだけ他教員も参加) 理論研修
- 9月13日(月) **FITのみ** 授業参観有り
第2回研究推進協議会
西部教育事務所 宮田指導主事来校
東広島市教育委員会 花岡指導主事来校
- 11月4日(木) 全員参加
第3回研究推進協議会
義務教育指導課(県) 小坂指導主事来校
東広島市教育委員会 花岡指導主事来校

先達の言葉

全ての出来事は、
前向きに考えればチャンスとなり、
後ろ向きに考えればピンチとなる。
問題が起きたことが問題ではなく、
どう考えたかが本当の問題である。

福島正伸(日本経学者)

単元計画の通りに学習が進まなければ、その学びは失敗なのでしょうか? いいえ、違います。子供が主体的に考え、自分ごととして捉えることができるなら、計画の変更は成功なのです。子供たちの気付きを最大限に生かし、単元計画を作成、修正しましょう。